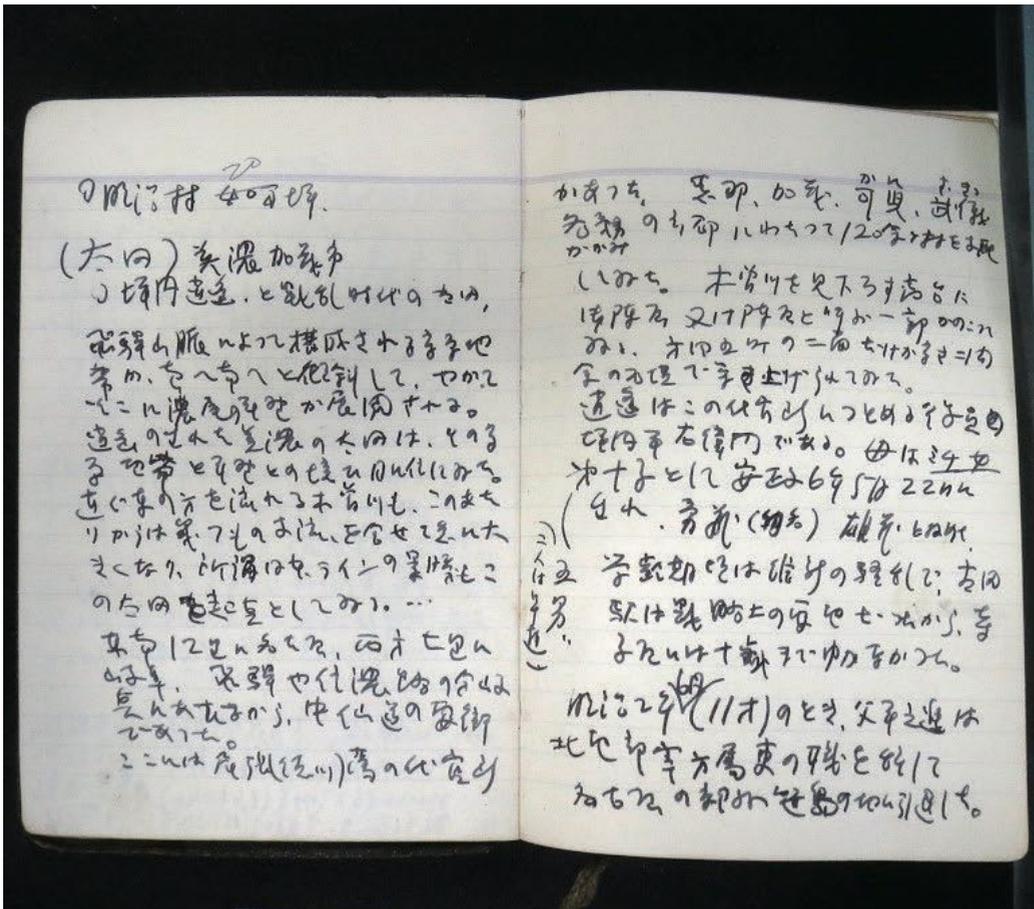


書かれた「この地」を読む

📖 みのかもブックマーク

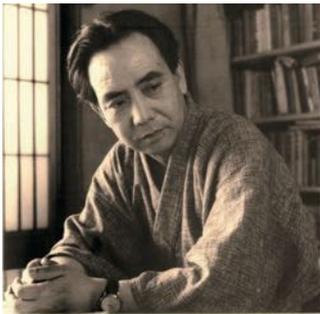


▲野田宇太郎「東海文学散歩」取材ノート(写真提供：野田宇太郎文学資料館)

野田宇太郎の「文学散歩」を読む(2)

坪内逍遙の歌碑が立つ祐泉寺(太田本町)には、木曾川の景勝を「日本ライン」と名付けた地理学者・志賀重昂の碑もあります。住職は野田宇太郎に志賀の手紙や寺に縁ある文人の資料を見せ、北原白秋来訪の話をします(本連載4参照)。1カ月後に再来した野田は、白秋の足跡を追体験するように飛騨川を眺め、ライン下りをしました(文学散歩第13巻 東海文学散歩 山道篇文一総合出版・1978年)。

野田が「文学散歩」を始めたのは昭和25年で、戦争で荒廃した東京を歩き、近代文学の歴史を書いた「新東京文学散歩」はベストセラーとなります。東海地方を踏査した昭和30年代後半、当時日本各地では戦後の開発のために貴重な自然や文化遺産が破壊されており、憤りを抱いた野田は全国を踏査し、その記録と保存に力を注ぎました。同じ頃に野田は逍遙が太田から転居した名古屋の家も取材しますが、『文学散歩第12巻 東海文学散歩 海道篇下(文一総合出版・1978年)』の発刊までにこの家も失われました。そのおぼえがきで「本書で出来るだけ原型或いはそれに近い姿を記録し得たことに微妙な安堵の思いを噛みしめている」と述べています。



▲野田宇太郎(昭和34年夏・50歳)
(写真提供：野田宇太郎文学資料館)

の だ う た ろ う 野田 宇太郎 (1909-1984)

福岡県生まれ。詩人、出版編集者として活躍。1951年「日本読書新聞」に「新東京文学散歩」を連載。1962年博物館明治村の常任理事に就任。1977年紫綬褒章受章。

📖みのかも文化の森
☎28-1110